

14時30分解禁

平成21年7月 全国百貨店売上高概況

百貨店をこほり
全国百貨店
けんすいまく川柳
募集

平成21年8月18日

I. 概 況

1. 売上高総額	6,185億円余
2. 前年同月比	-11.7% (店舗数調整後/17か月連続マイナス)
3. 調査対象百貨店	87社 272店 (平成21年6月対比±0店)
4. 総店舗面積	6,691,656㎡ (前年同月比:-1.7%)
5. 総従業員数	97,664人 (前年同月比:-4.6%)
6. 3か月移動平均値	12-2月 -9.8%、1-3月 -11.2%、2-4月 -12.0%、 3-5月 -12.3%、4-6月 -10.8%、5-7月 -11.0%

[参考] 平成20年7月の売上高増減率は-2.5% (店舗数調整後)

【7月売上の特徴】

17か月連続で前年同月比マイナスとなった。

7月は、政府の景気対策の効果などからマクロ的には景気持ち直し判断が表明されているものの、個人消費に直接影響する雇用情勢や所得水準は依然厳しさを増しており、デフレ傾向が強まる中、低温多雨という天候不順やサマーセール前倒しの反動とも相まって、盛夏商材の不振を中心に、前月(6月/-8.8%)に比べ売上減少幅を広げる結果となった。

具体的な動向としては、セール等の催事強化や品揃えの見直しなど、各店で購買喚起の取り組みが行われたが、天候不順の影響で入店客数が減少したこと、水着・浴衣・日傘など季節商材に動きが見られなかったこと、セール比率の高まりで客単価が下落したこと、企業収益の大幅減少を背景に法人外商が影響を受けたことなどマイナス要素が重なり、全般的に苦戦を強いられることとなった。なお、中元商戦は早期受注の反動から7月は低調であったものの、通期では前年を若干下回る水準であり比較的堅調に推移したと考えられる。

【要 因】

(1) 天 候 : 気象庁発表「7月の天候」の特徴は以下のとおり (一部抜粋)

◇ 梅雨前線が本州付近に停滞し、また、北日本では気圧の谷の影響を受けやすかったため、北日本から西日本にかけては曇りや雨の日が多かった。このため降水量が多く日照時間が少なかった。

(2) 営業日数増減 30.9日 (前年同月比-0.1日)

(3) 土・日・祝日の合計 9日 (" ±0日)

(4) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比)

①増加した: 14店、②変化なし: 15店、③減少した: 113店、④不明: 46店

(5) 7月歳時記(夏祭り/七夕・花火大会等、新暦お盆、夏休み)の売上(同上)

①増加した: 7店、②変化なし: 24店、③減少した: 66店、④不明: 91店

(6) 翌月売上見通し (回答店舗数で見る傾向値)

①増加する: 5店、②変化なし: 43店、③減少する: 80店、④不明: 60店

全国百貨店 売上高速報 2009年07月

第1表 地区別売上高

※店舗数調整後 ()が調整前

地 区	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
全 国	618,577,406	100.0	-11.7 (-12.4)
10都市	399,301,248	64.6	-12.1 (-12.8)
札幌	16,040,002	2.6	-6.4 (-9.2)
仙台	8,864,383	1.4	-10.3
東京	149,411,600	24.2	-13.4 (-14.6)
横浜	33,845,824	5.5	-9.5 (-11.9)
名古屋	38,002,426	6.1	-12.6
京都	23,874,421	3.9	-11.7
大阪	79,488,245	12.9	-12.0
神戸	16,542,758	2.7	-11.6
広島	15,776,858	2.6	-12.0
福岡	17,454,731	2.8	-11.8
10都市以外の地区	219,276,158	35.4	-10.9 (-11.6)
北海道	4,685,015	0.8	12.9
東北	11,062,628	1.8	-9.8
関東	103,660,343	16.8	-11.3
中部	17,968,596	2.9	-13.0
近畿	19,538,735	3.2	-13.0
中国	14,714,275	2.4	-11.0 (-8.0)
四国	12,501,307	2.0	-8.4 (-12.5)
九州	35,145,259	5.7	-11.2 (-15.2)

第2表 商品別売上高

商 品 別	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
総 額	618,577,406	100.0	-11.7 (-12.4)
紳士服・洋品	39,258,943	6.3	-16.7 (-17.2)
婦人服・洋品	145,296,757	23.5	-15.6 (-16.2)
子供服・洋品	14,070,777	2.3	-15.6 (-15.7)
その他衣料品	17,692,714	2.9	-12.7 (-13.3)
衣 料 品	216,319,191	35.0	-15.6 (-16.1)
身のまわり品	73,429,925	11.9	-12.9 (-13.8)
化粧品	27,787,926	4.5	-5.4 (-5.9)
美術・宝飾・貴金属	27,491,647	4.4	-14.9 (-15.8)
その他雑貨	23,096,464	3.7	-20.1 (-20.5)
雑 貨	78,376,037	12.7	-13.5 (-14.1)
家 具	8,458,601	1.4	-15.9 (-16.2)
家 電	1,820,292	0.3	-15.1 (-16.1)
その他家庭用品	17,657,152	2.9	-8.7 (-9.3)
家 庭 用 品	27,936,045	4.5	-11.5 (-12.0)
生 鮮 食 品	39,063,267	6.3	-3.7 (-4.2)
菓 子	43,107,686	7.0	-3.8 (-4.9)
惣 菜	33,956,887	5.5	-7.9 (-8.8)
その他食料品	73,895,481	11.9	-9.8 (-11.0)
食 料 品	190,023,321	30.7	-6.9 (-7.9)
食 堂 喫 茶	16,809,981	2.7	-9.6 (-10.4)
サ ー ビ ス	5,927,043	1.0	-0.8 (-2.0)
そ の 他	9,755,863	1.6	8.0 (6.7)
商 品 券	33,139,242	5.4	-13.7 (-14.5)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。商品券は総額に含まれません。また、商品券の構成比は、総額に対する比率です。本統計には消費税は含まれておりません。

Ⅱ. 地区別の動き

- | | | |
|------------------|--------|---------------------------------|
| 1. 10都市売上動向 | -12.1% | (店舗数調整後／17か月連続マイナス) |
| 2. 10都市以外の地区売上動向 | -10.9% | (// ／25か月連続マイナス) |

【地区別売上前年比の寄与度とトレンド】

地区	売上前年比	寄与度	トレンド
10都市	-12.1	-7.9	17か月連続マイナス
札幌	-6.4	-0.2	11か月連続マイナス
仙台	-10.3	-0.1	15か月連続マイナス
東京	-13.4	-3.3	17か月連続マイナス
横浜	-9.5	-0.5	12か月連続マイナス
名古屋	-12.6	-0.8	20か月連続マイナス
京都	-11.7	-0.5	11か月連続マイナス
大阪	-12.0	-1.5	17か月連続マイナス
神戸	-11.6	-0.3	16か月連続マイナス
広島	-12.0	-0.3	17か月連続マイナス
福岡	-11.8	-0.3	12か月連続マイナス
10都市以外の地区	-10.9	-3.8	25か月連続マイナス
北海道	12.9	0.1	2か月連続プラス*
東北	-9.8	-0.2	16か月連続マイナス*
関東	-11.3	-1.9	25か月連続マイナス
中部	-13.0	-0.4	16か月連続マイナス
近畿	-13.0	-0.4	16か月連続マイナス
中国	-11.0	-0.2	14か月連続マイナス*
四国	-8.4	-0.2	25か月連続マイナス
九州	-11.2	-0.6	23か月連続マイナス*

(注) 北海道、東北、中国、九州については、2006年1月からそれぞれ札幌、仙台、広島、福岡を10都市に移行したため(2005年までは6大都市)、連続性の観点から2007年1月からのトレンドとした。

Ⅲ. 商品別の動き

主要5品目は、6か月連続で全品目がマイナスとなった。しかし、化粧品、美術・宝飾・貴金属が先月より改善し、雑貨が0.5ポイントの改善となった。また、惣菜も先月より改善の動きとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-11.7	—	17か月連続マイナス
紳士服・洋品	-16.7	-1.1	16か月連続マイナス
婦人服・洋品	-15.6	-3.8	25か月連続マイナス
子供服・洋品	-15.6	-0.4	11か月連続マイナス
その他衣料品	-12.7	-0.4	17か月連続マイナス
衣料品	-15.6	-5.7	25か月連続マイナス
身のまわり品	-12.9	-1.6	23か月連続マイナス
化粧品	-5.4	-0.2	8か月連続マイナス*
美術・宝飾・貴金属	-14.9	-0.7	29か月連続マイナス*
その他雑貨	-20.1	-0.8	20か月連続マイナス*
雑貨	-13.5	-1.7	17か月連続マイナス
家具	-15.9	-0.2	20か月連続マイナス
家電	-15.1	0.0	19か月連続マイナス
その他家庭用品	-8.7	-0.2	17か月連続マイナス
家庭用品	-11.5	-0.5	20か月連続マイナス
生鮮食品	-3.7	-0.2	6か月連続マイナス*
菓子	-3.8	-0.2	6か月連続マイナス*
惣菜	-7.9	-0.4	14か月連続マイナス*
その他食料品	-9.8	-1.1	6か月連続マイナス*
食料品	-6.9	-2.0	6か月連続マイナス
食堂喫茶	-9.6	-0.3	12か月連続マイナス
サービス	-0.8	0.0	4か月連続マイナス
その他	8.0	0.1	11か月連続プラス
商品券	-13.7	-0.8	25か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化したため、2007年1月からのトレンド

平成21年7月 東京地区百貨店売上高概況

平成21年8月18日

I. 概況

1. 売上高総額	1,494億円余
2. 前年同月比	-13.4% (店舗数調整後/17か月連続マイナス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭-12.0%(90.4%) : 非店頭-24.7%(9.6%) () 内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	14社 27店 (平成21年6月対比±0店)
5. 総店舗面積	947,026㎡ (前年同月比:-4.2%)
6. 総従業員数	18,667人 (前年同月比:-3.1%)
7. 3か月移動平均値	12-2月 -10.5%、1-3月 -11.4%、2-4月 -12.2%、 3-5月 -12.9%、4-6月 -12.4%、5-7月 -12.9%

〔参考〕平成20年7月の売上高増減率は-0.9% (店舗数調整後)

【7月売上の特徴】

- (1) 都内各店のサマーセール状況は、6月前倒しスタートの店ではその反動減の影響があり、7月1日スタートの店でも初日が平日という日合わせの関係から初動のインパクトが鈍化したため、全般的に盛り上がり欠ける結果となった。
- (2) 今年の中元商戦は6月・7月通期で前年をやや下回る売上であったが、特徴的な動きとしては、自家需要商材や限定商材、またネット受注の好調さなどが目立った。
- (3) 天候不順の影響でUV対策商材が不調であった反面、雨傘・レインコート・レインブーツ等の雨天対策商材に動きが見られた。
- (4) 株価が回復基調にあることなどを背景に、高額商材に動きが見られた。一部の店舗では輸入時計で前年売上をクリアするケースも報告されている。
- (5) 8月中旬までの売上動向については、都内の多くの店舗で前年比-5%前後を記録している。7月の水準からは回復の兆しが見てとれる。

【要因】

- (1) 営業日数増減 31.0日 (前年同月比±0.0日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比)
 - ①増加した: 2店、②変化なし: 3店、③減少した: 15店、④不明: 2店
- (3) 7月歳時記(夏祭り/七夕・花火大会等、新暦お盆、夏休み)の売上(同上)
 - ①増加した: 0店、②変化なし: 4店、③減少した: 8店、④不明: 10店
- (4) 翌月売上見通し(回答店舗数で見る傾向値)
 - ①増加する: 0店、②変化なし: 7店、③減少する: 12店、④不明: 3店

東京地区百貨店 売上高速報 2009年07月

※店舗数調整後 ()が調整前

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) *
総 額	149,411,600	100.0	-13.4 (-14.6)
紳士服・洋品	10,864,359	7.3	-18.8 (-19.3)
婦人服・洋品	33,715,844	22.6	-18.2 (-18.9)
子供服・洋品	2,495,935	1.7	-13.7 (-13.8)
その他衣料品	3,683,216	2.5	-17.9 (-18.9)
衣 料 品	50,759,354	34.0	-18.1 (-18.8)
身のまわり品	19,786,365	13.2	-13.0 (-14.9)
化粧品	6,813,021	4.6	-7.3 (-7.8)
美術・宝飾・貴金属	7,038,462	4.7	-16.5 (-17.8)
その他雑貨	7,163,968	4.8	-22.7 (-23.0)
雑 貨	21,015,451	14.1	-16.1 (-16.8)
家 具	2,466,988	1.7	-17.6 (-18.4)
家 電	553,010	0.4	-11.9 (-12.0)
その他家庭用品	4,290,571	2.9	-19.1 (-19.8)
家 庭 用 品	7,310,569	4.9	-18.1 (-18.8)
生 鮮 食 品	6,302,520	4.2	-1.7 (-2.9)
菓 子	10,718,971	7.2	-4.7 (-6.7)
惣 菜	7,805,700	5.2	-8.6 (-10.1)
その他食料品	16,928,018	11.3	-12.9 (-14.6)
食 料 品	41,755,209	27.9	-8.5 (-10.2)
食 堂 喫 茶	3,912,446	2.6	-8.9 (-10.2)
サ ー ビ ス	2,033,306	1.4	12.0 (11.9)
そ の 他	2,838,900	1.9	28.6 (27.4)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率 (%)

*

商 品 券	5,754,998 千円	-14.6 (-17.6)
従 業 員 数	18,667 人	-3.1
店 舗 面 積	947,026 m ²	-4.2

営 業 日 数	31.0 日	前年	31.0 日
---------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は、10か月連続で全品目がマイナスとなった。しかし、化粧品、美術・宝飾・貴金属は先月より改善の動きとなり、雑貨が0.9ポイント改善した。また、家具、その他家庭用品も同様に、家庭用品も0.8ポイント改善した。食料品は惣菜が改善、生鮮が健闘したが、その他食料品が落とす動きとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-13.4	—	17か月連続マイナス
紳士服・洋品	-18.8	-1.5	16か月連続マイナス
婦人服・洋品	-18.2	-4.3	12か月連続マイナス
子供服・洋品	-13.7	-0.2	11か月連続マイナス
その他衣料品	-17.9	-0.5	15か月連続マイナス
衣料品	-18.1	-6.5	12か月連続マイナス
身のまわり品	-13.0	-1.7	16か月連続マイナス
化粧品	-7.3	-0.3	8か月連続マイナス*
美術・宝飾・貴金属	-16.5	-0.8	11か月連続マイナス*
その他雑貨	-22.7	-1.2	14か月連続マイナス*
雑貨	-16.1	-2.3	15か月連続マイナス
家具	-17.6	-0.3	16か月連続マイナス
家電	-11.9	0.0	19か月連続マイナス
その他家庭用品	-19.1	-0.6	14か月連続マイナス
家庭用品	-18.1	-0.9	14か月連続マイナス
生鮮食品	-1.7	-0.1	2か月ぶりマイナス*
菓子	-4.7	-0.3	6か月連続マイナス*
惣菜	-8.6	-0.4	16か月連続マイナス*
その他食料品	-12.9	-1.5	6か月連続マイナス*
食料品	-8.5	-2.2	10か月連続マイナス
食堂喫茶	-8.9	-0.2	9か月連続マイナス
サービス	12.0	0.1	9か月連続プラス
その他	28.6	0.4	11か月連続プラス
商品券	-14.6	-0.6	17か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化したため、2007年1月からのトレンド

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・西田・佐藤まで
TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>